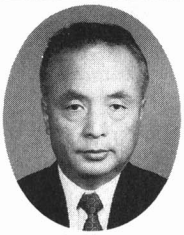
（巻頭言）



自らが変わるとき

教育センター学校経営部長　佐藤和夫

1冊の写真集がある。

そこにクローズアップされた教師たちの顔。その表情は，いずれも困惑と苦悩に満ちている。 ― 教師たちは，話が理解できない状況であった。分からないことをずーっと聞いている教師たちの表情は，暗く重苦しい ― と解説は語る。

教師たち……それはいずれも授業のプロを自認しているベテランたちである。それが，専門であるはずの授業の話が理解できず，悩み抜いているのである。

なぜ困惑し，悩むのか。

T教授の提案授業をみた教師は語る。 ― 聞いていてさっぱり分からなかった。今まで自分が考えていた「授業」というイメージからかなりズレを感じたので，拒否する心が私の中に強くあった ― 今まで培ってきた「教材観」「授業観」「子ども観」というものを，根底からひっくり返されたからである。経験や指導技術に頼っていた自らの授業観では「どうにも理解できない」ことに気づかされたからである。では，どうすればいいのか。

経験が役立たない。どうしたらよいか……教師たちの困惑は深まるばかり……。そんな中で行われた授業研究は，子どもが氷のように沈黙し，うずくまったまま教師の問いにも反応しない。次のてだてが分からず，呆然と立ちつくす教師……たった1枚の写真が，冷酷なまでに立ち往生した教師の心をえぐり出している。

授業を創る仕事が，いかに厳しいものであるか如実に示した1枚の写真。 ― どうして子どもたちが動いてくれなかったのか，なぜ……。授業で，こんな惨めな思いをしたのは初めてだった ― と授業者は語っている。写真に写る，上目づかいに教師の様子を伺う子ども……その表情は固く不安げだ。

教師は，自ら非力さに気づいた。

授業創りは，奥が深い。教科書をなぞっただけの教材研究，他人を模倣した方法論だけの授業では，子どもの「問い」をよび起こし，深い追求に追いついていけない。これに気づいた。 ― このことを契機に，自分たちの授業を変えようとする雰囲気が少しずつ出てきた。そして，教師の苦悩に満ちていた表情も，少しずつ明るくなっていった ― と解説は語る。

教師は変わった。

子どもの問いに応える深い教材解釈……「深い教材研究」が最も重要であることに気づいたとき，教師は変わったのである。屈み込むようにして子どもに問いかける教師，体全体で自分の考えを表現しようとする姿……。子どもたちは，しだいに深く集中するようになった。1枚1枚に写る子どもの豊かな表情が，如実にそのことを物語っている。

教師は，自らが変わることにより授業を変え，子どもの追求を呼び起こしたのである。たった1冊の写真集だが，その訴える力は大きい。